

「ネットワーク医療と人権（MERS）」2002年度活動報告

特定非営利活動法人
ネットワーク医療と人権
事務局長 太田裕治

ネットワーク医療と人権(MERS)は、2000年9月に任意団体として設立され、翌年2001年11月に NPO 法人格(特定非営利活動法人)を取得しました。去る6月22日、MERS は正会員(社員)を招集して定時総会を開催し、2002年度における事業報告並びに決算書類の承認を得たので、本誌上において昨年度の活動内容を報告いたします。

【1】「薬害エイズ」真相究明事業／調査研究事業

－輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究－

MERS は「薬害エイズ」での教訓をもとに、薬害の再発防止と感染症患者らに対する差別の撤廃及び偏見の解消、そして良い医療が受けられる社会の実現を目指して活動していますが、その基本となるのが「薬害エイズ」の「真相究明」です。MERS では、2001年度に真相究明事業の一環として、血友病医療現場を検証すべく、被害者本人、遺族、医療関係者らの聞き取り調査を計画し、幾度か関係者との事前協議を重ねたすえ、2001年10月に調査主体である「輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究委員会」－委員長：養老孟司氏－を発足させました。実際の調査にあたっては、主に社会学を専門領域とする研究者で構成した調査作業部会を作り、これによりまず医師に対する準備調査に着手しました。

そして、昨年度は血友病患者の治療に携わってきた医師らに対する本調査を実施すると同時に、被害者側の聞き取り調査を開始するための準備を行ってきました。これまでの調査に関する経過や今後の方向性及び調査結果などについて公表することを委員会で取り決め、本年6月に「第一次報告書」を発刊(1000部)しました。

※部数に限りはありますが、「第一次報告書」(本年6月発行)の入手ご希望の方は MERS までご連絡下さい。

【2】フォーラム・シンポジウム等開催事業

－薬害・医療・人権問題等の啓発－

MERS の活動や「薬害エイズ」について社会の人々に知ってもらうことと啓発を目的として、シンポジウムを中心にイベントを開催しました。昨年度は、人権問題としてのハンセン病と昨年10月に提訴された薬害 C 型肝炎裁判をテーマに講演会、シンポジウムを主催イベントとして開催しました。これらのテーマについて当事者や関係者の経験を聞くことは、「薬害エイズ」での経験を活動の基礎に据える私たちにとっても、改めて問題点を再認識することができますし、これらの問題を広く伝えていくことが私たちの使命であるとも思います。

<MERS 主催>

(1)2002年6月30日(大阪)「ハンセン病シンポジウム」15:00~18:00

会 場:大阪府立労働センター(エル・おおさか)・606号室会議室

テーマ:ハンセン病シンポジウム「元ハンセン病患者の人権は回復されたか？」

内 容:

- ・ハンセン療養所医師によるハンセン病の説明
講師:国立療養所邑久光明園 青木美憲医師
- ・元ハンセン病患者の体験と現在の思い
森川重信氏(大島青松園)、千葉龍夫氏(退所者)
- ・国賠訴訟担当弁護士による裁判の経過
坂本団弁護士(MERS 理事)
- ・シンポジウム

※入場無料、参加者40名

(2)2003年3月16日(大阪)肝炎シンポジウム

会 場:大阪府立労働センター(エル・おおさか)

テーマ:肝炎シンポジウム「第二の国民病“C型肝炎”の実態を暴く！」

内 容:

- 第一部:講演「肝炎の歴史と現在の治療」 講師・飯野四郎氏(清川病院院長)
- 第二部:肝炎シンポジウム

<シンポジスト>

- ・飯野四郎氏(医療法人静山会清川病院院長)
- ・花井十伍氏(大阪 HIV 薬害訴訟原告団代表)
- ・西村慎太郎氏(日本肝臓病患者団体協議会常任理事)
- ・甲斐みなみ弁護士(薬害肝炎被害救済弁護士・大阪)

※入場無料、参加者120名

※薬害 C 型肝炎被害救済弁護士団協力

<MERS 後援>

(1)2002年12月1日(大阪)血友病患者シンポジウム

*主催:シンポジウム開催実行委員会

会 場:千里ライフサイエンスセンター

テーマ:患者参加の血友病医療を目指して

内 容:

- ・第一部:ブルース・エバット博士(CDC 血液学者)講演
「血液製剤の安全性と諸問題—危険性の評価について—」
- ・第二部:血友病患者のためのシンポジウム

「患者参加の血友病医療を目指して」

<シンポジスト>

- ・世界血友病連盟代表 ブライアン・オマホニー氏
- ・国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター長 岡 慎一 医師
他、医師3名、患者3名

※入場無料、参加者：130名

※本年5月報告書3000部発行

(2)2003年3月29日(東京)HIV 訴訟和解7周年記念行事

* 主催：HIV 訴訟原告団、同弁護団

会 場：ホテルニューオオタニ東京「舞の間」

テーマ：亡くなった人たちへの追悼と再発防止の決意を新たにー

内 容：

献花、厚生労働大臣挨拶、大臣協議の成果と評価、遺族被害実態調査報告 等

※当会は、後援団体として、理事長あいさつ、受付業務などを担当した。

<他団体への協力>

・2002年11月16日(大阪)薬害根絶フォーラム

※主催：全国薬害被害者団体連絡協議会

・2002年6月15～16日(大阪)薬害肝炎電話相談 ※主催：大阪 HIV 訴訟弁護団

- * 本年6月15日と16日に行われた大阪 HIV 訴訟弁護団主催－MERS 協力の肝炎
電話相談について、MERS が結果を分析し報告書原案を作成。トータル 140 件のうち、
ほとんどが肝炎罹患患者からの相談であり、改めて国内肝炎患者の多さを認識した。
また、6割が輸血経験者からであった。

【3】その他の事業

(1)「薬害エイズ」被害者活動支援事業

- ・大阪 HIV 訴訟原告団が実施する事業・活動の補助
- ・原告団関連会議、協議、イベント等への参加、協力

(2)情報の収集と発信に関わる事業

・機関誌 MERS ニュースレターの発行

* 年2回発行：2002年5月、2002年8月

・ホームページによる情報提供

* <http://homepage2.nifty.com/mers/>

・血友病世界大会参加報告集

* 2002年8月発行(発行部数2000部)

(3)血友病患者ネットワーク支援事業

- ・血友病世界大会(2002年5月19日～24日、スペインセビリヤ)
 - * 世界血友病連盟(WFH)主催
 - * 報告書を2002年8月に発行及び配布
- ・WFH 会長来日(02年11月29日～12月3日:シンポジウム、ミーティング開催)
 - * 2003年5月30日報告書発行
- ・血友病患者委員会(Committee of Hemophiliac Japan)の設置
 - * 昨年6月に、当会及びはばたき福祉事業団のメンバーが核となって血友病患者委員会(CHJ)を立ち上げ、「薬害エイズ」の教訓を踏まえた血友病患者ネットワークのあり方、組織作りの方向性等を討議。また、同委員会において、WFH 関連行事への参加の仕方を検討。

(4)その他一項目のみ列記一

- ・血液新法・血液事業関連部会への参加
- ・刑事裁判(HIV 関連)の傍聴
- ・2003年3月をもって発展的解消するビヨンド(大阪 HIV 訴訟を支える会)が果たしてきた機能の継承検討
- ・薬害 C 型肝炎訴訟への支援検討